

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

55

発行日：平成30年5月15日(火)
(2018年)

地域企業紹介 55

大島機工株式会社

ハイレベルなQCDを目指して

金属製品製造業を営む大島機工株式会社の山口伸治社長を田名の本社工場に訪ねました。

同社は1973年(昭和48年)5月に小松部品株式会社の協力工場として、主に建設機械油圧シリンダ部品の製造を行うことを目的に前社長である山口晃氏によって設立され、本年度で創立45周年を迎える。

法人設立から3年目の1976年に「NC旋盤1号機」を導入、続く1977年には「マシニングセンタ1号機」を導入するなど設備導入を着実に進めてきた。1978年には自動車部品 車速センサ・ピニオン製造を開始すると共に、2000年にはコンピュータによる生産管理システムを導入。厳しい時代背景のもと自動車ミッション部品、シンクロリング製造やトラック部品の製造を開始するなど事業領域の拡大を図ると共に工場並びに事務所を増設するなどの製造現場・執務環境の充実も積極的に推し進めてきた。

大島機工株式会社が得意とする製品群は①建機・油圧シリンダ部品 ②自動車部品 ③産業機械部品及び医療機器関連部品と幅広い。売上シェアの7割を占める建機部門は、主に国内向けであるミニ型・小型・中型、主に海外向けである大型・超大型があるが、同社はミニから大型まで幅広く取り扱っている。そんな同社の特徴は、材料の自給化が可能であり、試作及び小ロットから量産品加工の一貫生産体制に至るまで柔軟に対応できることがあげられる。また、長年にわたる業歴から得られた技術力やノウハウをもとに切削時間の短縮・品質向上・生産効率化に日々取り組んでいること。そして何よりも異形の鋳物や鍛造品など極めて複雑な形状をした部品について、特殊治具を使って巧みに造り上げる技術こそが当社の最大の強みだと山口社長は言う。

山口社長は座間市の出身で兄と弟の三人兄弟。弟さんとは双子で、小さい頃はクラスメイトも見間違えるほど“そっくり”だったそうだ。また、小学生時代からスポーツすることが好きで野球とテニスに熱中。中学以降はテニス一本に絞ることになったが、本当は野球を続けたかったらしい。高校時代は、夏休みになると兄弟そろって、父晃氏の要請により大島機工でアルバイトしたことが、今でも思い出として残っているそうだ。

大島機工株式会社

代表取締役社長 山口 伸治(やまぐち しんじ)

所在地：相模原市中央区田名 2242-3

従業員数：28名

資本金：1000万円 売上高：3.7億円

事業内容：金属製品製造(建設機械部品、油圧シリンダ部品、自動車部品、ガス器具部品、産業機械部品)

URL: <http://www.ookk.jp/>

その後、国学院大学法学部に進み、卒業後は薬品会社に就職、医療機器販売部門で約3年間勤務した。その時の上司から社会人としてのマナーや営業の極意など多くのことを学ぶ。厳しくも愛情を持って育ててくれた恩師だと山口社長は振り返る。その頃、ご両親がほぼ同時に病に倒れるという予期せぬことが起こり、伸治氏が急遽事業承継することになった。約1年間にわたり小松ゼノアで厳しい修行を積んだのち大島機工に入社。

そんな山口社長が代表取締役役に就任したのは2003年4月、2005年にはISO9001:2000認証取得(品質)すると共にCAD/CAMの導入、2006年には生産ラインを改善し、生産性向上を目的とした「経営革新計画」が神奈川県知事の承認を受ける。その翌年である2007年には待望の新工場が完成(現在の本社工場)、2009年にはエコステージ1を取得するなど、同社の企業力アップに向けた活動は休むことなく続けられた。

2014年には多品種小ロット対応設備をはじめ「5軸複合加工機」を導入すると共に2016年には横型マシニングセンタを導入し、ハイレベルな品質管理は勿論のこと取扱製品の多様化など、さらなる企業価値の向上に積極的に取り組んでいる。

2018年1月には、「平成29年度：神奈川県優良工場表彰」を受賞。同賞は優れた製造技術と品質管理等に基づいた経営実績や作業環境・生産技術が特に優れていること。また人材育成、

新規事業展開と労働時間の短縮、環境関連手続きの遵守に取り組んでいると共に地域貢献活動などを評価するものであり、同社の地道な努力が高く評価された証だろう。

ちなみに、山口社長は商工会議所をはじめ様々な団体に積極的に参画している。特に工業系若手経営者が自己啓発と自らが真の経営者に成るための会として発足した「青年工業経営者研究会」(略称：青工研)に所属して学んだことが今の経営に役立っているという。また、2010年には第9期生として「SIC経営塾」を受講、自社の事業構想を約1年かけて考えられたことは非常に有意義だった。できれば経営塾講師である寺本講師の明るく的確な講義を再受講し、改めて事業構想を考えてみたいと山口社長。

「これからの10年は今まで以上に早いスピードで変わっていく。また、今後も中小企業にとって人手不足は切実なる問題だ。今後10年は規模の拡大より自社の強みをさらに強化しながら、景気低迷期にも崩れない磐石な経営基盤を持つ会社にする」と山口社長は将来に向けた方針を示す。人・モノ・設備・作業方法を適切に組み合わせ、常にハイレベルな「品質・コスト・納期」(QCD)を目指し、お客様のニーズにお応えできるよう地道な経営活動に取り組んでいきたいと語る。まもなく創業50年を迎える大島機工株式会社のチャレンジに終わりは無い。



入居企業紹介

58

「技術革新に貢献する提案型企業を目指して！」

マイクロエッチプロセス株式会社



産業機器や工学部品、レーザー装置の設計及び販売、産業部品の販売や輸出入を手がけるマイクロエッチプロセス株式会社の白井明夫社長にお話を伺いました。

同社は、事業領域が「微細加工」で、レーザー加工や放電加工、エッジング加工について技術提案や装置の開発・販売を行う「ファブレスメーカー」です。現在は半導体関連の企業との取引が主ですが、これからは微細加工にニーズのある分野への進出を目指しています。これまでの受託開発という形態から自社製品の販売を目指し、青色LED(レーザー・ダイオード)による加工機の

開発に取り組んでいます。現状では赤色LEDが主流ですが、吸収率や線幅といった青色LEDの特性を生かした用途開発も視野ながら、普及を早めるために低廉価格での製品実現を目指しています。

生まれも育ちも相模原の白井社長は、工作機械メーカーでものづくりの現場経験を積み、光学部品メーカーで工程管理、品質管理などのマネジメントをしました。ものづくりの現場の仕事に戻りたいという気持ちが強くなり、当時、先端を行くレーザー関連の開発を行う会社に転職しました。そこで自社の施設の修繕から営業、部品調達、企画、製造の広範囲に及ぶ業務にあたりながら、自然界の中にある光にも様々な光があること、それをものづくりの現場で実際に見たり触れたりしながら、物理学の領域である「光」について学びました。客先や取引先とのつながりが徐々に

広がり、顧客からの要望にもっと柔軟に応えたいと2015年10月にマイクロエッチプロセス株式会社を設立しました。

白井社長は、「ビジネスマッチングなどに参加すると、微細加工へのニーズがまだまだ多くあることがわかります。取り掛かった青色LED加工機の製品を完成させ、事業化することで、既存の製造技術に革新を起こしたい。顧客の真のニーズを引き出し、それにスピード感をもって応えることの出来る微細加工というものづくり分野で貢献する会社を目指しています。」と話してくださいました。



MEP
Micro Edge Process

マイクロエッチプロセス株式会社
SIC-1318号室
E-mail: shirai@mepinfo.com
URL: <http://www.mepinfo.jp>



What is “Incubation”?

SICの特徴ある事業とその担当者の紹介を通じ、インキュベーションセンターとは何かをお伝えしています。今回は、「賃貸事業」を紹介します。

インキュベーションセンターの屋台骨である賃貸事業を相模原市内の西橋本に2施設(SIC-1、SIC-2)、上溝に1施設(SIC-3)の計3棟で展開しています。研究所、オフィス、工場の用途に貸室単位で提供するとともに、8年前からは、フリーデスクの会員制レンタルオフィス「Desk10」を始めています。

広さ、高さ、電気設備、水道設備、耐荷重などが異なる13タイプ

123室に入居、入会することで、一般的な賃貸ビルやレンタルオフィスとは違ったサービスを受けられます。企業の成長促進を目的に設計しており、その利用のしやすさと無駄のない機能は、建設から18年経過した今も入居者の皆様から喜ばれています。

現在7名のインキュベーション・マネージャーが常駐しており、経営全般や操業環境整備等について手軽にご相談いただけます。

SIC-1



インキュベーションセンターの先駆けとして2000年にオープン。工場タイプのラボ・研究室タイプのセミラボ・オフィス利用のsmallオフィス有する新たな産業育成拠点として、創業者と新たな事業展開を目指す中小企業を対象とし、ゼロからのスタートで入居企業の皆様とともに成長してきました。起業家層をイメージした建物内は、1階のロビーに商談スペース、休憩スペース、会議室などを設置しており、交流の場となっています。最長7年の入居期限はありますが、賃料を抑えたSIC-1は、最も多くの企業が入居し、卒業しています。

SIC-2

SIC-1で成長した企業の更なる規模拡大の受け皿として、また、技術力のある企業の地域産業との連携促進の場として、セミラボ、オフィスの2種類の部屋タイプで構成しています。3年ごとの契約による長期的な経営戦略の展開を可能にし、地域連携の核を目指す企業に入居していただいています。



SIC-3

SIC-2同様、SIC-1で成長したもののづくり企業の規模拡大の受け皿として整備しました。ハード面の特徴は、1階貸室はSIC-1のラボをもとに利用しやすい中二階を採用し、さらに進化した造りになっています。また、用途地域の特性上、生産活動ができることが最大のメリットです。

津久井産の木材を使用した多目的室は、昼は食堂、夜は入居者間・企業間の交流スペースとして、日中は商談スペースとしても利用でき、存在感を発揮しています。



Desk10

フリーデスク10席を整備しています。現在28名の会員が利用しているレンタルオフィスです。



担当IMから一言

賃貸事業へ込める想い

事業を担当して5年目を迎えました。当初から一貫して、入居者様からいただく操業環境に関するご意見やご要望に迅速かつ適切に応えることを一番に心がけてまいりました。入居者の皆様のハード面、ソフト面の困りごとに、同じ屋根の下で仕事をしている仲間として伝えられるよう、また、入居者交流会など温かく気軽な雰囲気づくりを心がけています。

インキュベーション・マネージャーとしての今後の方向性

昨年養成研修を受け、日本ビジネス・インキュベーション協会認定のインキュベーション・マネージャーとなりました。これからも、入居者の皆様にハード面だけでなく、経営サポートといったソフト面でもお役にたてるよう日々精進し、おもてなしを備えた「SICのホテルマンのような存在」を目指し励んでいきます。



総務部
大谷 裕一

神奈川県相模原市水郷田名の出身。大学卒業後、飲食系企業に入社し、店舗マネジメント業務に従事。2012年のSICのソーシャルビジネス創育支援事業(津久井地域の資源を活用して事業化支援を行った「地域資源発信プロジェクト室」)のスタッフとして入社。2014年から施設管理を担当し、入居募集、入居審査、入退去事務、施設修繕などの業務を行っている。



〒192-0375 東京都八王子市鎌水530-1
TEL/FAX 042-677-5511
営業時間 日曜日～木曜日 10:00～22:00
金曜日・土曜日 10:00～24:00
<http://www.burg-kaffee.com/pappelburg/index.html>

八王子市の御殿峠にある大人の落ち着いた喫茶店「パペルブルグ」を訪ねました。

気さくな2代目店主青木さんの実父が、この地で1991年にオープンし、現在は弟さんとお店を切り盛りしています。昨年ラインナップを変えた厳選の豆を自家焙煎して、サイフォンで淹れるコーヒーマシーンと手作りスイーツのチーズケーキ、アップルパイをいただきました。平日の15時～19時限定で提供しているアフタヌーンプレートもおススメとのこと。西洋を感じる店内は、ゆったり目に席や間隔がレイアウトされており、ついつい長居してしまいそうです。峠で見つけた、落ち着いた雰囲気でのんびり、こだわりの1杯1皿、ごちそうさまでした。(大谷)



Taiwan Japan

SIC台湾
ビジネスサポート

SIC さがみはら産業創造センターは、
日本企業と台湾企業との交流・協業を
目指した取り組みを行いながら、
中小企業の持続的な発展と成長をサポートします。

Taiwan

事業概要

日本の中小企業各社にとって、国内市場の縮小などの環境変化を乗り越え、持続的な発展を続けていくために、海外展開は検討すべき取組の一つとなっています。SICでは、日本企業との取引経験をもつ企業が多い台湾に着目し、「台湾ビジネスサポート事業」を行っています。

台湾は、海外へも比較的強い販売力を持つ企業が多く、様々な業種において強固で成熟した産業基盤を有しています。日本で実績ある革新的技術への期待感も高い台湾で、あるいは、台湾経由による中国大陸や東南アジアなどの第三国で、その後のビジネスを発展・成長させていくために、是非、SICの支援メニューをご利用ください。

支援メニュー

個人支援メニュー

海外ビジネス相談	調査	オフィス開設	商談	展示会出展
PRツール制作	翻訳	通訳	契約書	特許・商標

団体支援メニュー(不定期開催)

商談会	展示会出展	展示会見学・企業訪問
-----	-------	------------

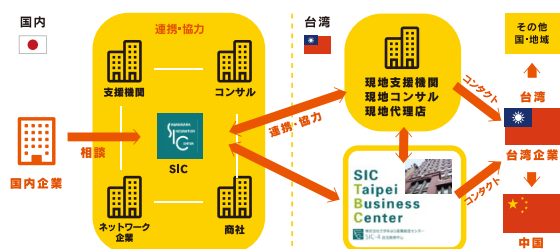
団体企画・運営相談

行政、自治体、支援機関等支援

商談会、展示会出展、展示会見学や企業訪問等、これまでの台湾現地での企画や運営に関するノウハウを活かし、企業の皆様の様々な支援をしてみたいです。様々なご相談に細やかに対応させて頂いています。

運営体制

SICでは、国内の支援機関や商社、ネットワーク企業等の連携や協力だけでなく、『SIC台北ビジネスセンター』による独自のネットワークを活用し、台湾現地の支援機関やコンサルティング会社、代理店との連携・協力をしながら、支援体制を構築しています。



支援実施事例

商談支援の場合

現状把握 → 支援計画提案 → 商談企業候補の探索 →
商談準備(企業選定、商談調整等) → 現地商談サポート →
フォローアップ

展示会
出展支援の場合

現状把握 → 支援計画提案 → 展示会出展計画策定 →
出展ブースデザイン → 出展準備 → 現地出展運営サポート →
フォローアップ

支援実績

- 実績①:A社 商談支援を通じて、台湾大手メーカーの販売代理店との商談が成立し、現在、取引を拡大させている。
- 実績②:B社 商談会を通じて、台湾での新事業創出の実現可能性を実感し、台北に現地法人を設立して事業を開始した。
- 実績③:C社 展示会見学・企業訪問を通じて、出展台湾企業から自社が必要な機能のものがハイスペックで搭載され且つ低価格な加工機械を購入することができた。

最近の支援トピックス

株式会社アオイ 様 「GIFTIONERY TAIPEI 2018」展示会出展支援

支援実施内容

- ・ 現状把握
- ・ 支援計画提案
- ・ 展示会出展計画策定
- ・ 出展手続きサポート
- ・ 出展ブースデザイン
- ・ PRツール制作
- ・ 中国語及び英語翻訳
- ・ ホテル等情報提供
- ・ 通訳者手配
- ・ 現地出展運営サポート
- ・ フォローアップ



お問い合わせ先

株式会社さがみはら産業創造センター SIC台湾ビジネスサポート 担当:五島
TEL:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: taiwan-pj@sic-sagamihara.jp

2018.5 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

- 5月17日(木) The HINT3 9 (SICミニセミナー)
- 5月27日(日) 2018年 アントレ・インターンシップ 事前説明会
- 6月 1日(金)~11日(月) 子どもアントレ2018申し込み受付期間
(開催:8月24日~26日)
- 6月 2日(土)~12月12日(水) 2018年 SICリーダー塾(全10回)
- 6月 9日(土)~10月26日(金) アントレ・インターンシップ(全41回)
- 6月16日(土)~平成31年2月9日(土) 2018年 SIC経営塾(全11回)

knock! knock! 入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (平成30年5月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 ○スモールオフィスA (23.6㎡)	3	78,700円
SIC-2 空室はありません	-	-
SIC-3 空室はありません	-	-

編集後記

SICには、IM(インキュベーションマネージャー)が7名在籍しています。日本のBI(ビジネスインキュベーター)の中では多いほうで、株式会社には認定IMが最も多いBIです。各号ではBIを知って頂く為に事業を紹介すると共に、SICの財産であるIMも紹介しています。今年度も、どうぞ、よろしくお願いいたします。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想をお待ちしています。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>